

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立玄界高等学校

【テーマ】 I II III **IV** V

I オリンピズムの教育的価値
II おもてなし精神とボランティア
III パラリンピックと障害者スポーツ
IV 日本文化と異文化・国際理解
V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

『異文化・国際理解およびスポーツ交流』

～2020オリンピック・パラリンピックに向けて～

【実施学年】

第1学年1組 国際文化コース（男子17名・女子22名）

【目的・ねらい】

本校国際文化コースに在籍している外国籍生徒（1年生）の出身国と、日本の文化・風習等の違いを再確認する。また、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会に向けての意識付け、さらに、フェンシングを通しての交流を図り、スポーツの楽しさ等を共有する。

【種類】

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容）

1. アンケート結果報告・「異文化・国際理解について」「オリンピックについて」
2. 北京オリンピックについて・写真を使用し、オリンピックによる説明
～ 北京オリンピック（2008）出場、西田 祥吾 氏（フェンシング）～
 - ・オリンピックに出場するには強い意思が必要。（夢を強く思う）
 - ・いくつもの犠牲を払い、オリンピック出場へ突き進む。
 - ・他国の選手とのコミュニケーションを図る。
 - ・夢を大きく持ち、諦めないで努力する。



西田選手と記念撮影

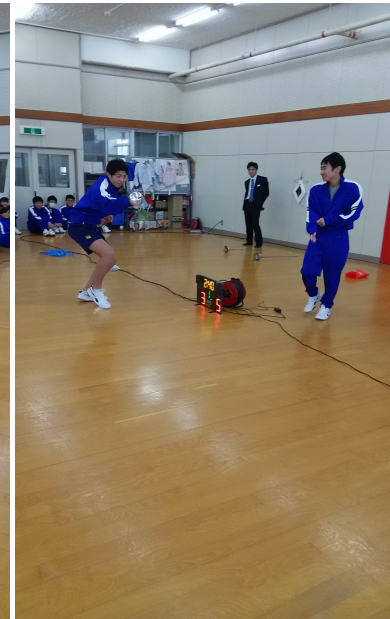


オリンピックのジャージ



多国籍生徒との記念撮影

3. フェンシング体験 (スポーツ交流)



- ・フェンシングの剣を使い、的当てゲームを行う。
- ・初めて経験するスポーツ（フェンシング）の楽しさを体感する。

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・オリンピック講演については、スライド（写真）を使用し説明形式にした。
- ・アンケート結果については、生徒が理解しやすいよう工夫した。
- ・フェンシング体験については、簡単にできる内容に限定した。

(成果)

生徒にとって、東京オリンピック開催は「遠い存在」だったのかもしれない。しかし、今回のオリンピック・パラリンピック教育の実施により、「身近な存在」に変わったようである。同時にオリンピックとの交流や初めて体験するスポーツの楽しさを体感できたことは、生徒にとって大きな財産となった。感想文には「夢を叶えるためには、夢を強く願うこと」や「2020年の東京オリンピックが楽しみになりました」など、ポジティブな感想が多くあった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

2020年まで継続的に実施することが必要不可欠であると思われる。